

# 本大学生におけるクラブ活動への所属状況や所属動機の検討 —2022 年の入学生を対象にして—

The Examination of Club Activity and Motives for Affiliation in University Students  
—For 2022 Incoming Students —

金 美 珍  
(こども学科専任講師)

**要旨** 本研究では、本大学生を対象にクラブ活動への所属状況や所属動機を検討し、学生指導に反映できる基本資料を得ることを目的とした。クラブ活動への所属率は 6 割強で高い割合を示しており、そのうち、4 割弱の学生が二つ以上のクラブに所属していた。また、クラブ活動を文化部と運動部に分類したところ、文化部所属 43.1%、運動部所属 30.7% で文化部に所属している割合がやや多かった。文化部と運動部の複数所属あり群は、全体のうち 14.6% であり、文化部のみ所属群は 28.5%、運動部のみ所属群は 16.1% であった。クラブ活動の所属動機として、「小・中・高校時での経験があり、継続したい」が最も多く示された。その中でも「中学、高校での音楽活動や運動活動の経験」が所属動機として多くあげられ、本対象者は、中学・高校時の経験を活かして大学ならではの楽しい活動を期待していることが推察された。

【キーワード：クラブ活動 文化部 運動部 中学・高校時の経験】

## I. はじめに

内閣府政策統括官の青少年の生活に関する全国調査によると、大学生・大学院生の文化部、運動部、その他の部活動への加入率は、1995 年では約 5 割、2000 年では約 4 割であった。また、教育学的・体育学的研究の大半で、サークル集団への加入率は 4 割から 7 割であると報告されている<sup>1)</sup>。

大学生のサークル集団は、大学生の人間関係の拡充や、趣味活動の充実など、大学生活を充実させるために重要な課外活動集団と捉えられている<sup>2)</sup>。

また、橋爪・高木(1995)<sup>3)</sup>は、学生生活の充実感とサークル集団への所属状況との関連において、退部者と現在所属していない者は学生生活の充実感が低いことを明らかにしている。

多くの大学でサークル集団への加入率や参加状況、活動内容、加入動機などの実態調査などが行われている。しかし、これらの先行研究は 4 年制大学の学生を対象とした報告がほとんどであり、短期大学の学生を対象とした研究資料はわずかである。短期大学は 2 年生になると就職活動がはじまり、アルバイトをする学生も多いので、部活動に参加する割合は 4 年制大学に比べて低いと思わ

れる。

大学生生活の充実感にはサークルへの所属が学業以上に大きな役割を果たしているという結果が報告されている。大学がサークル活動に期待しているものとして、人間関係調整能力、技能・技術の開発、理念的思考力の開発、社会規範の取得<sup>4)</sup> があげられるが、学生のサークル参加の動機は「仲間がたくさんできる」「先輩・後輩のつながりができる」などがあり、学生と大学のサークル活動への期待の間にはギャップがあると指摘されている<sup>4)</sup>。

従って、本大学生のクラブ活動への参加状況や参加動機を調査し検討することは、2 年間の学生生活の満足度や学生生活指導において何らかの必要な要素を明確にできると考えられる。

そこで、本研究では本大学生を対象にクラブ活動への参加状況や参加動機を検討し、学生指導に反映できる基本資料を得ることを目的とする。

## II. 研究方法

### 1. 対象

埼玉県内の一私立短期大学に在学している女子大学生 1 年生 143 名を対象とした。

## 2. 調査期間と方法

2022年7月中に自記式質問紙調査を行った。

## 3. 調査項目

現在のクラブ活動状況に関する質問で、クラブ活動への所属の有無、活動内容、活動頻度、クラブ活動の所属動機、所属していない理由であった。クラブ活動の所属動機に関しては自由記述をし、所属していない理由に関しては選択肢を設け、複数回答を可とした。

## 4. 分析方法

クラブ活動への所属の有無、活動内容に関しては記述統計を行った。また、クラブ活動の所属数に関しては3群（一つのクラブ活動へ所属、二つのクラブ活動への所属、三つ以上のクラブへの所属）に分類し、記述統計を行った。複数所属活動に関しては、各々のクラブ活動を文化部、運動部に分類し、クロス集計を行った。自由記述回答である「クラブ活動への所属動機」に関しては、アフターコーディング処理を行った。

アフターコーディングとは、自由記述の内容を意味の似通ったカテゴリーごとに分類し、コード化する方法である。コード化した上で定量的にデータ処理を行った。本文の記載にあたっては、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》, コードを< >で示した。

分析には、IBM SPSS Statistics Version 24.0を使用した。

## Ⅲ. 結果

対象者143名のうち、分析対象者は137名であった（回答率96%）。

### 1. クラブ活動への所属の有無

クラブ活動への所属の有無をFigure 1に示した。クラブ活動の所属有り群は、88名（64.2%）であり、所属なし群は49名（35.8%）であった。

### 2. クラブ活動の内容

鈴木（2021）<sup>5)</sup>の部活動の分類方法を参考に、各々のクラブ活動を運動部と文化部に分類し、Table 1に示した。

クラブ活動は、「文化部」59名（43.1%）、「運動部」42名（30.7%）で文化部に所属している割合が多かった。「文化部」活動は、「家政部」22名（16.1%）、「学生会」18名（13.1%）、「ミュージックラバーズ部」11名（8.0%）、「写真部」10名（7.3%）、「スマイル部」10名（7.3%）、「漫画・アニメ部」8名（5.8%）、「軽音楽部」6名（4.4%）、「書道部」4名（2.9%）、「プロコロ部」3名（2.2%）であった。そのうち、家政部の割合が多かった。「運動部」の活動は、「バドミントン部」10名（7.3%）、「フィットネス部」10名（7.3%）、「テニス部」8名（5.8%）、「卓球部」5名（3.6%）、「フットサル部」5名（3.6%）、「バレーボール部」4名（2.9%）、「バスケット部」4名（2.9%）、「ハンドボール部」4名（2.9%）で

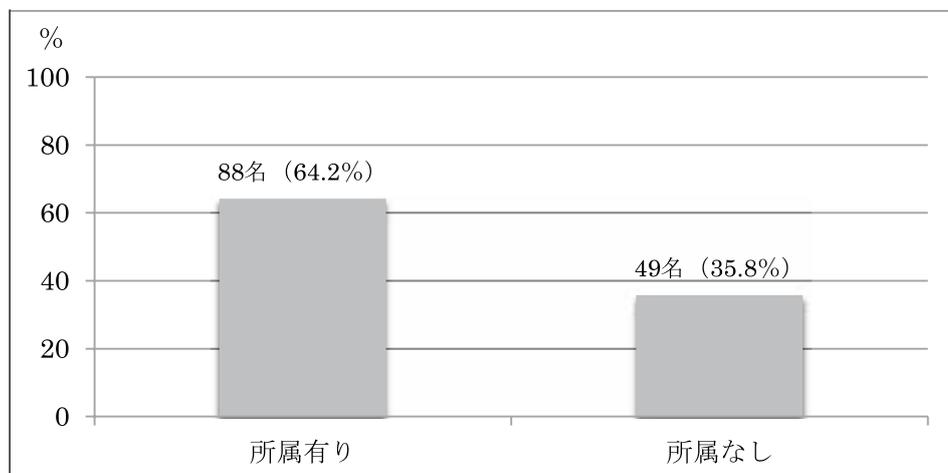


Figure 1. クラブ活動への所属の有無

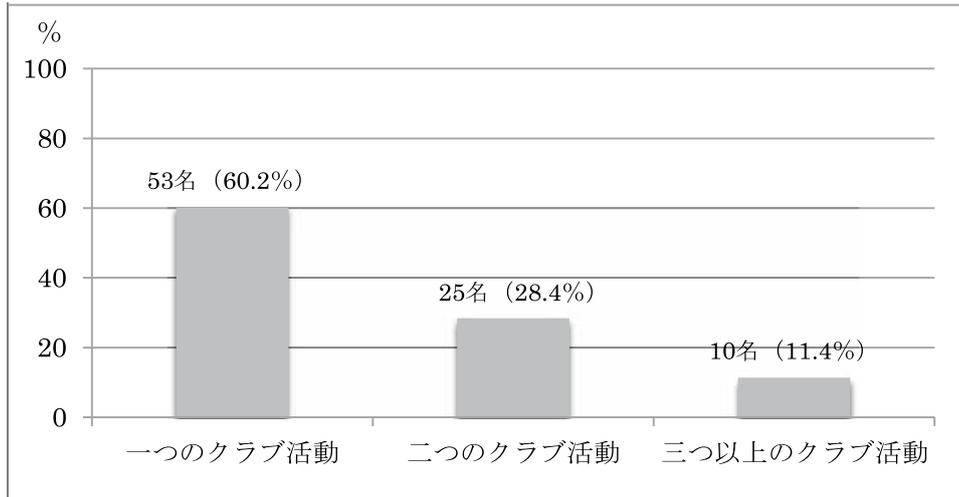


Figure 2. クラブ活動の所属数

Table 1. クラブ活動の内容

	n	%
<b>文化部</b>	<b>59</b>	<b>43.1</b>
家政部	22	16.1
学生会	18	13.1
ミュージッククラブズ部	11	8.0
写真部	10	7.3
スマイル部	10	7.3
漫画・アニメ部	8	5.8
軽音楽部	6	4.4
書道部	4	2.9
プロコロ部	3	2.2
<b>運動部</b>	<b>42</b>	<b>30.7</b>
バドミントン部	10	7.3
フィットネス部	10	7.3
テニス部	8	5.8
卓球部	5	3.6
フットサル部	5	3.6
バスケットボール部	4	2.9
ハンドボール部	4	2.9
バレーボール部	4	2.9

あった。そのうち、バドミントン部とフィットネット部の割合が多かった。

全てのクラブ活動のうち、家政部に所属している割合が最も多く、つづいて学生会、ミュージッククラブズ部、バドミントン部、フィットネス部の順であった。

### 3. クラブ活動の複数所属

クラブ活動に複数所属している群を3群に分類し、Figure 2に示した。「一つのクラブ活動」群は53名(60.2%)で最も多く、「二つのクラブ活動」群は25名(28.4%)、「三つ以上のクラブ活動」群は10名(11.4%)であった。

また、文化部と運動部の複数所属については、Table 2 に示した。文化部と運動部の複数所属あり群は、全体の 137 名のうち 20 名 (14.6%) であり、文化部のみ所属群は 39 名 (28.5%)、運動部のみ所属群は 22 名 (16.1%) であった。

#### 4. クラブ活動の頻度

クラブ活動の頻度状況を Figure 3 に示した。「月 4 回活動」と「月 1 回活動」が各 23 名 (16.8%) で最も多かった。次に、「大学祭などの行事前に主に活動」14 名 (10.2%) であり、つづいて「月 3 回活動」7 名 (5.1%)、「月 2 回活動」6 名

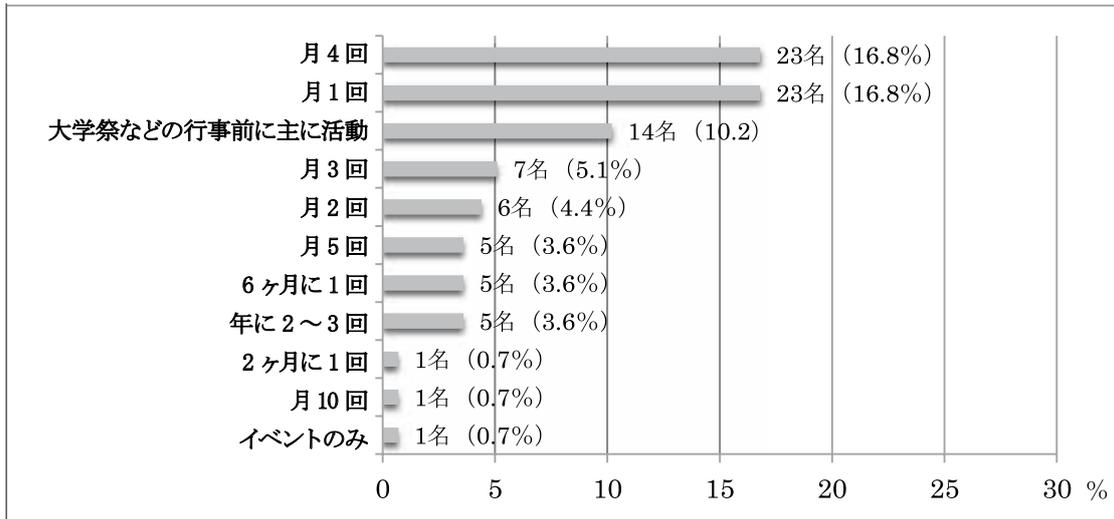


Figure 3. クラブ活動の頻度

(4.4%)、「月 5 回活動」5 名 (3.6%)、「6 か月に 1 回活動」5 名 (3.6%)、「年に 2 ~ 3 回」5 名 (3.6%)、「2 か月に 1 回活動」1 名 (0.7%)、「月 10 回活動」1 名 (0.7%)、「イベントのみ」1 名 (0.7%) の順であった。

#### 5. クラブ活動の所属動機

クラブ活動の所属動機を Table 3 に示した。クラブ活動の加入動機に対して自由記述を求め、アフターコーディング処理を行った。カテゴリは回答の多い順に【小・中・高校時での経験があり、継続したい】(45 件)、「その活動をしたい】(38 件)、「好きだから】(35 件)、「楽しそうだから】

(11 件)、「先輩や友達から誘われた】(8 件)、「技術を向上させたい】(6 件)、「先輩や先生に憧れていた】(5 件)、「交流関係を築きたい】(3 件)、「興味がある】(3 件)、「自己成長したい】(1 件) の 10 カテゴリであった。

【小・中・高校時での経験があり、継続したい】は、《中学校時の経験》(17 件)、「高校時の経験》(17 件)、「小学校からの経験》(5 件)、「その他の経験》(6 件) の 4 サブカテゴリで構成された。全コードの中で、<中学校時に吹奏楽に所属していたから> (7 件)、「高校で吹奏楽に所属していたから> (7 件) が最も多かった。【その活動をしたい】では、《運動活動》(11 件)、「学校行

Table 2. 文化部と運動部の複数所属について

		文化部		計	P 値
		所属あり	所属なし		
運動部	所属あり	20 14.6%	22 16.1%	42 30.7%	0.474
	所属なし	39 28.5%	56 40.9%	95 69.3%	
計		59 43.1 %	78 56.9%	137 100.0%	

Table 3. クラブ活動の所属動機

【カテゴリー】 (10)	《サブカテゴリー》 (13)	〈コード〉 (84)	件
小・中・高校時での経験があり、継ぎたい (44件)	中学校時の経験 (17件)	吹奏楽に中学校で入部してたから	7
		中学校でやって続けたいと思った	4
		中学校のとき入っていたから	2
		中学校時に卓球部に入っていたので、またやりたい	2
		中学校時テニス部に入っていたから	1
		中学校でテニスをしたから	1
	高校時の経験 (17件)	吹奏楽に高校で入部してたから	7
		高校でやって続けたいと思った	4
		高校の時に入っていて続けてやりたいと思ったから	2
		高校からサッカーをやっていたから	1
		高校で合奏をしていたから	1
		高校の時ハンドボールに入っていて続けたい	1
	小学校からの経験 (5件)	小学校から続けてきたから	2
		小学校時やったことがあったから	1
		バスケットを小3からやって続けたいから	1
		小学時から好きで、運動を続けてやりたかったから	1
	その他の経験 (5件)	バレーボールをやったことがあったから	2
		卓球をしたから	1
		写真部だったから	1
		ドラムをしたから	1
		高校の頃生徒会活動の手伝いをしていたのが楽しかったので続けたい	1
	運動活動 (11件)	体を動かしたかった	4
		好きな曲でダンスを踊りたいと思ったから	2
		テニスと似ているので、チャレンジしてみたい	1
		バレーボールがしたい	1
ハンドボールがしたい		1	
ダンスができるから		1	
適度な運動ができるため		1	
学校行事の運営や貢献 (10件)	学校の行事運営に携わりたかった	6	
	学校に貢献したいと思ったから	2	
	人の役に立てることをしたかったから	1	
	高校でも生徒会に入っていて、大学でも同じような活動をしたい	1	
その活動をした い (38件)	料理活動 (4件)	バーベキューがしたいから	1
		料理を作って食べたかった	1
		料理をしたいから	1
		美味しいものをつくるから	1
保育と関連のある活動 (4件)	子どものおもちゃを作りたい	1	
	離乳食を作ってみたかったから	1	
	子どもと関わりたいから	1	
	手遊びをしたいから	1	
音楽活動 (3件)	音楽を久しぶりにやりたいから	1	
	ギターがしたいから	1	
	持っている楽器を使って活動できるから	1	

Table 3 の続き. クラブ活動の所属動機

【カテゴリー】 (10)	《サブカテゴリー》 (13)	〈コード〉 (84)	件
	ボランティア活動 (2件)	ボランティア活動をしたいから	2
	写真活動 (2件)	色んな所に行って写真を撮れるから	2
	大学生生活に充実させたい (2件)	毎日充実したい	1
		忙しい中でも活動できると言われたので	1
	アニメ活動 (10件)	アニメやゲーム、イラストを書くのが好きだから	5
		料理やお菓子作りが好きだから	4
		絵を描くのが好きだから	1
	音楽活動 (7件)	合奏をするのが好きだから	3
		音楽が好きだから	2
好きだから (35件)		吹奏楽が好きだから	1
		ベースが好きだから	1
	運動活動 (7件)	ダンスが好きだから	5
		バスケが好きだから	1
		大会に出るのも好きだったから	1
	その活動が好きのため (8件)	その活動が好きだから	8
	写真活動 (3件)	写真を撮るのが好きだから	3
楽しそうだから (11件)		楽しそうと思ったから	7
		料理するのが楽しそうだから	2
		BBQがあると聞いて楽しそうだから	2
先輩や友達から誘われた (10件)		先輩から誘われたから	7
		友達から誘われたから	2
		高校時に女子サッカー部に入っていて友達と一緒に入りたかった	1
技術を向上したい (6件)		小さい子の前で何かをやる技術が向上しそうだから	1
		少しでも保育士としての力をつけたい	1
		人前に出ること慣れたかった	1
		習字をやっていたから作品を書きたい	1
		料理が上手になりたいから	1
		字を上手く書きたい	1
先輩や先生に憧れていた (5件)		オープンキャンパスで先輩たちが格好良かったから	1
		学生会の先輩に憧れていた	1
		オープンキャンパスで先輩たちの発表をみて入りたかった	1
		入学する前から入りたかった	1
		大好きな仲の良い先生がいるから	1
交流関係を築きたい (3件)		アニメを書くのが好きで、同じ趣味の人と交流したい	1
		社会性を身に付けたいから	1
		交流関係を広げたい	1
興味がある (3件)		料理に興味があるから	1
		レジンとか作れると知ったから	1
		興味があったから	1
自己成長したい (1件)		自分を変えたいから	1

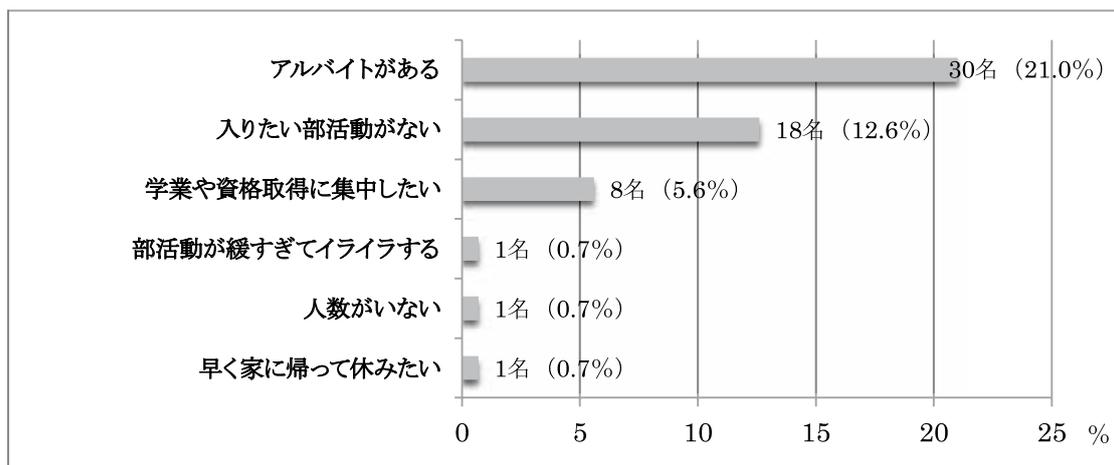


Figure 4. クラブ活動に所属しない理由

事の運営や貢献》(10件), 《料理活動》(4件), 《保育と関連のある活動》(4件), 《音楽活動》(3件), 《ボランティア活動》(2件), 《写真活動》(2件), 《大学生活を充実させたい》(2件)の8サブカテゴリーで構成された。全コードの中で, <学校の行事運営に携わりたかった>(6件), <体を動かしたかった>(4件)の回答が多かった。【好きだから】は, 《アニメ活動》(10件), 《その活動が好きのため》(8件), 《音楽活動》(7件), 《運動活動》(7件), 《写真活動》(3件)の5サブカテゴリーで構成された。全コードの中で, <その活動が好きだから>(8件)の回答が最も多かった。次いで<アニメやゲーム, イラストを書くのが好きだから>(5件), <ダンスが好きだから>(5件), <料理やお菓子作りが好きだから>(4件)の回答が多かった。【楽しそうだから】では, その活動が<楽しそうと思ったから>(7件)の回答が最も多かった。【先輩や友達から誘われた】では, <先輩から誘われたから>(7件)の回答が最も多かった。【技術を向上したい】は, <小さい子の前で何かをやる技術が向上しそうだから>(1件), <少しでも保育士としての力をつけたい>(1件)などの回答があった。【先輩や先生に憧れていた】では, <オープンキャンパスで先輩たちが格好良かったから>(1件), <学生会の先輩に憧れていた>(1件)などの回答があった。【交流関係を築きたい】は, <アニメを書くのが好きで, 同じ趣味の人と交流したい>(1件), <社会性を身に付けたいから>(1件)などの回答があった。【興味がある】では, <料理に興味があるから>(1件)など, 【自己成長したい】では, <

自分を変えたいから>(1件)の回答があった。

#### 6. クラブ活動に所属しない理由

クラブ活動に所属しない理由を Figure 4 に示した。クラブ活動に所属しない理由として, 「アルバイトがある」21.9% (30名), 「入りたいクラブ活動がない」13.1% (18名), 「学業や資格取得に集中したい」8名 (5.8%) の回答があった。その他, 「早く家に帰って休みたい」1名 (0.7%), 「クラブ活動が緩すぎてイライラする」1名 (0.7%) の自由回答があった。

#### IV. 考察

大学の「クラブ」, 「サークル」, 「部活動」などの集団の呼称については, 研究により, それぞれ異なる対象を指すものと, 区別せずに扱っているものがある<sup>6)</sup>。

大学のクラブ活動は, サークル活動とクラブ(部活動)という2種類に区別できる。一般的に, サークルは気軽に楽しみを追求することが多く, クラブ(部活動)は大会出場や技術の向上を目指すことが多い。活動頻度にも違いがあり, クラブ(部活動)は毎日活動することがほとんどであるが, サークルは週に1~2回かそれ以下のことも多い<sup>7)</sup>。

また, クラブは学校公認のもので資金, 場所, 顧問などがあるが, サークルは学校非公認のもので学生が自主的に集まったものを指すという違いがある<sup>8)</sup>。これらを特に区別せず「サークル集団」と称する場合もあるが, 本研究では学生会を含め

「クラブ活動」と称する。

本研究では、2年間の大学生活における、クラブ活動への参加状況や参加動機を検討し、学生指導に反映できる基本資料を得ることを目的とし、質問紙調査を行った。その結果、本対象者のクラブ活動への所属率は64.2%を示していた。そのうち、一つのクラブに所属して活動している学生は約6割であり、二つ以上のクラブに所属している学生も4割弱であった。

教育学的・体育学的研究の報告されているサークル集団への加入率をみると、文化系サークル対象であり、スポーツ集団のみを対象とする集団が若干異なるため、多少のばらつきがあるものの、全体として4割～7割の加入率を報告している<sup>9)10)</sup>。

しかし、これらの調査は、学内のサークル活動が2割、学外のサークル活動が8割弱で、学外でのサークル活動率も含まれている。それに比べ、本調査は学内のみのクラブ活動であり、得られた6割という所属率は大きい値である。また、本学の学生は、ほぼ毎日4時限までの授業があるため、クラブ活動は授業終了後に1時間半程度で行っており、体育館は一つの団体が活動するのがふさわしい広さであるなど、活動の制限がある。

文化庁（平成30年）<sup>11)</sup>は文化部活動の実態について、中学では約20%、高校では約25%と高校に入ると文化部に所属する割合が増加していると報告している。

本大学生の文化部所属率は43.1%で、運動部所属率の30.7%に比べ高い割合を示していた。年齢が上がるにつれ、軽音楽部や茶道・華道、調理、ボランティア等の多様化された活動を求めると考えられる。

本学のクラブ活動は、写真部、書道部、茶道部、漫画アニメ部、家政部、軽音楽部、ミュージックラバーズ部、スマイル部、プロコロ部、バレエボール部、バドミントン部、ソフトテニス部、バスケットボール部、フットサル部、卓球部、フィットネス部、ハンドボール部、学生会の総18部である。

クラブ活動の主活動<sup>12)</sup>を要約すると、まず、「文化部」の写真部、書道部は、展示会や大学祭の展示に向けて作品制作をしている。家政部は、学校の調理室で子どもの離乳食やおやつを作ったり、保育に必要なエプロンやミトンなどを製作する。

茶道部は講師を招いて指導を受けながら活動している。漫画・アニメ部は、定期的にイラストを描いたり見せ合ったりする。また、夏休みから大学祭に向けて販売物の作成等をしている。軽音楽部は、バンド活動であり、大学祭やクリスマスライブなどで演奏したり、地域の催しに参加したりしている。ミュージックラバーズ部は、演奏したい曲を選んでさまざまな楽器や演奏スタイルに挑戦し、学内、地域の行事に出演する。プロコロ部は、スペイン語で、「プロ」は純粋、「コロ」は合唱という意味で、歌うことが好きな仲間とハーモニーを楽しむ活動である。スマイル部は、福祉施設や水族館などでボランティアをする。スマイル幼稚園と称して、パネルシアターや手遊びを披露し、保育士としての実践力を高めている。学生会は、大学祭を企画・運営したり、オープンキャンパスや他の大学行事の運営の補助に当たっている。「運動部」のバレーボール部、バドミントン部、ソフトテニス部、バスケットボール部、フットサル部、卓球部、ハンドボール部は、全国私立短期大学体育大会や近隣の地域大会に参加することを目指し、日頃練習している。経験者がほとんどであるが、技術向上を目指し、一人ひとりのレベルに合わせて基礎練習から行うため初心者も楽しく活動できる。「フィットネス部」は、大学祭の舞台での発表を目指して活動している。グループを組んで、K-POP、J-POPなどの好きな曲のダンスを練習している。活動頻度は、毎週1回のように定期的に行っているクラブ活動もあり、イベントや大学祭などの発表に向けて不定期的に行っている活動もある。

渡邊・高橋（2002）<sup>13)</sup>は、教育学部生を対象に実施したサークル所属の実態調査で、サークル所属の理由として「その活動が好き」が最も多く挙げられていた。また、男女ともほぼ全員がサークル活動で良かったこととして「友達ができた」をあげていた。他に、田中らのサークル所属の理由を検討した研究では、「親しい仲間ができる」「自分の趣味や感性にあっている」「いろんな経験をしたい」の3選択肢が最も多く回答されていた。さらに川端（1998）<sup>10)</sup>は、運動系クラブへの所属理由として「友人を作るため」「何か運動をしたい」「そのスポーツが好きだから」が多いことを明らかにした。

しかし、これらの先行研究では、クラブ活動の所属動機として、人間関係と関連がある理由が多くあげられている。本調査では「小・中・高校時での経験があり、継続したい」動機が最も多く示された。その中でも「中学、高校での音楽活動や運動活動の経験」が所属動機として多くあげられていた。次いで多くあげられた動機は、その活動が好きだから、学校行事の運営に携わりたい、楽しそうだったから、先輩や友達から誘われたからで、先行研究とほぼ同様な結果が得られた。本対象者は、中学・高校時の経験を活かして、大学ならではの楽しい活動を期待していることが推察される。

また、サークルの実態のほか、先輩・後輩関係観などを検討した調査<sup>14)</sup>では、サークルに入った動機として「大学生活を充実させたかったから」の選択肢が女性8割、男性6割でもっとも多く示されていた。本対象者においては、その活動をしたというカテゴリーのうち、大学生活を充実させたい回答が2件であった。

なお、本対象者は、学生会やスマイル部に所属している学生が13.1%、7.3%の割合を示しており、課外活動において本対象者が求めているのは、将来保育士としての技術を向上する、人の前に出ることに慣れるような専門性であることが考えられる。

サークル集団における経験がその後の人生に与える影響について、社会人が「クラブ・サークルを経験した者は、一般常識が身につく」という期待を持っていることや、「社会生活を送る上で、クラブ・サークルの経験は、アルバイトの経験と同時に役に立つ」と考えられている。さらに、サークルに継続して所属していた学生は、入らなかった学生に比べ、大学生活で得たものとして「専門性」と「人間関係」をあげる傾向が強いことも明らかにしている<sup>15)</sup>。課外活動は、忍耐力、意思伝達力、折衝力、協調性、決断力、適応力、行動力、リーダーシップなどといった、人間基礎力<sup>16)</sup>を育成する場でもあり、十分なクラブ活動を通じて、2年間の大学生活の満足度が高められると考えられる。

社会は成績の良い学生よりもサークル活動やグループ活動を十分に経験している学生を期待する。さらに、非所属者と比べて質的に異なってくる

ことや、大学生活におけるサークル経験が人間関係・専門性の成長や社会性の獲得のために役立つ<sup>17)</sup>ことから、学生がクラブ活動に継続的・積極的に参加できるように何らかの支援が必要であると考えられる。

## V. まとめ

本研究は、本大学生のクラブ活動への参加状況や参加動機を検討し、学生指導に反映できる基本資料を得ることを目的とし、質問紙調査を行った。

その結果、本対象者のクラブ活動への所属率は6割強であり、そのうち、一つのクラブに所属して活動している学生は6割、二つ以上のクラブに所属している学生も4割であった。クラブ活動を文化部と運動部に分類したところ、文化部所属43.1%、運動部所属30.7%で文化部に所属している割合がやや多かった。文化部と運動部の複数所属あり群は、全体のうち14.6%であり、文化部のみ所属群は28.5%、運動部のみ所属群は16.1%であった。活動頻度は、毎週1回のように定期的に行っているクラブ活動もあり、イベントや大学祭などの発表に向けて不定期的に行っている活動もある。クラブ活動の所属動機として、「小・中・高校時での経験があり、継続したい」動機が最も多く示された。その中でも「中学、高校での音楽活動や運動活動の経験」が所属動機として多くあげられていた。次いで多くあげられた動機は、その活動が好きだから、学校行事の運営に携わりたい、楽しそうだったから、先輩や友達から誘われたからで、先行研究とほぼ同様な結果が得られた。そのことから本対象者は、中学・高校時の経験を活かして、大学ならではの楽しい活動を期待していることが推察される。

大学のクラブ活動は人間基礎力を育成する場でもあり、十分なクラブ活動を通じて2年間の大学生活の満足度が高められると考え、学生がクラブ活動に継続的、積極的に参加できる支援が必要であると考えられる。今回の調査結果をもとに、大学生活の満足度を高める要因などを関連つけて、今後さらに研究を深めたい。

参考文献

- 1) 内閣府政策統括官（総合企画調整担当）日本の青少年の生活と意識（第2回調査）－青少年の生活と意識に関する基本調査報告書－。財団法人印刷局。2001。
- 2) 高田治樹。大学生サークル集団への態度の探索的検討－否定的態度を含めた態度パターンの分類－。青年心理学研究。2014, 26, 29-46。
- 3) 橋爪裕子・高木修。クラブ・サークルへの加入から離脱までの意思決定家庭の研究。日本社会心理学会第36回大会。1995。86-87。
- 4) 栗原満義。サークル活動の現状と課題。大学と学生。1989, 288, 7－12。
- 5) 鈴木 雅之・荒俣 祐介。部活動における生徒の動機づけと指導者のリーダーシップとの関係。心理学研究。2020, 92 (1), 1－11。
- 6) 新井洋輔・松井豊。大学生の部活動・サークル集団に関する研究動向。筑波大学心理学研究。2003, 26, 95－105。
- 7) サークルってどんなものがあるの？種類や特徴を解説。 <https://internshipguide.jp/columns/view/circle-syurui-kaisetsu>(2022年10月7日)
- 8) クラブとサークルの違い。 <http://www.lance2.net/chigai-3/z0294.html> (2022年10月7日)
- 9) 杉山進・佐藤良子。お茶の水女子大学生のスポーツ・体育に関する意識。お茶の水女子大学人文科学紀要。1990, 43, 157-172。
- 10) 川端雅人。お茶の水女子大学生の課外活動に関する研究－運動クラブについて－。お茶の水女子大学人文科学紀要。1998, 51, 187－202。
- 11) 平成30年文化部活動の現状について。 [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunkakatsudo\\_guideline/01/pdf/r1407482\\_03.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/bunkakatsudo_guideline/01/pdf/r1407482_03.pdf) (2022年11月28日)
- 12) クラブ活動。埼玉純真短期大学。 <https://www.sai-junshin.ac.jp/campuslife/club/> (2022年10月1日)
- 13) 渡邊義行・高橋雄一。岐阜大学教育部学生のサークル所属に関する調査研究。岐阜大学教育学部報告（自然科学）。2002, 26 (2), 23-31。
- 14) 関西大学人権問題研究室女性問題研究班。課外活動とジェンダー－関西大学スポーツ系クラブ・サークルの学生意識調査－。関西大学人権問題研究室紀要。1997, 39, 1－98。
- 15) 荒井貞光。大学生問題とクラブ文化－クラブ・サークルのアンケート調査から－。青少年問題。1993, 46 (9), 10－16。
- 16) 茂里一紘。「人間基礎力」と課外活動の充実。大学と学生。2000, 427, 11－14。
- 17) 山口満。大学生から見たクラブ活動、部活動、サークル活動－昭和61年度筑波大学学内プロジェクト研究。一般研究報告書。1987。